

国立教員養成系大学の履修カルテの実態調査 —英語科教員養成に焦点を当てて—

山本長紀*

The Current Situation of *Rishu Karte* for English Teacher Education in National Universities

Takenori YAMAMOTO*

Abstract

The current study aims to examine how national universities with pre-service teacher training courses describe required skills for English teachers in their *Rishu Karte*. *Rishu Karte* was introduced in 2006 and was implemented 2010 in order to ensure that all student teachers acquire necessary skills through their pre-service teacher training. The framework of “Necessary Skills for Teachers” are shown by Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology along with detailed descriptors of the skills defined by each university with teacher education courses. No research has been carried out to define the skills that are described with focusing on English teacher education. Therefore, this study sets its aim to reveal descriptions of necessary skills for English teachers. The results of the research indicate that current *Rishu Karte* includes cross-subject descriptions that are likely to be used over the entire area in all pre-service teacher training courses. This implies that the current *Rishu Karte* does not evaluate the necessary skills for English teachers. Hence there is a significant consideration in designing specific skills for English teachers in *Rishu Karte*.

キーワード: 教員養成、履修カルテ、実態調査

1. はじめに

中央教育審議会は答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」(中央教育審議会, 2006)の中で、教員として必要な資質能力を形成したのかどうかを確認する「教職実践演習」を新設・必修化した。この答申によれば、教職実践演

習は平成25年度の後期に初めて実施されることとなる。さらに「履修カルテ」が導入され、文部科学省(2012)は履修カルテを「教職実践演習の進め方について参考」(p.231)としたり「個別の補完的な指導に活用」(p.231)したりする資料と位置づけている。

*駒沢女子大学 非常勤講師

履修カルテは、学生の教職課程の履修履歴の把握と、4つの必要な資質能力（「使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項」「社会性や対人関係能力に関する事項」「幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項」「教科・保育内容等の指導力に関する事項」）の評価を目的としている。前者に関して、履修カルテには「教職関連科目の履修状況」という項目があり、卒業要件の科目の履修状況を学生が記入する。後者に関して、「自己評価シート」と呼ばれる項目があり、各大学が定める必要な資質能力について学生による自己評価が行われる。この自己評価シートは「教員免許取得のためのコース毎に作成」（文部科学省，2012，p. 228）される。自己評価シートにおいて評価する4つの必要な資質能力の具体的な記述は、「課程認定申請の手引き（平成24年度改訂版）」（文部科学省，2012）に例示されている。表1は4つの必要な資質能力のうち「教科・保育内容等の指導力に関する事項」に関連する記述を抜粋したものである。

履修カルテにおいて評価される必要な資質能力については、各大学が独自に定めている。そのため川嶋・篠塚（2012）が指摘したように、複数の大学の履修カルテを調べた研究はほとんど行われて

いない。そこで本研究は「教科・保育内容等の指導力に関する事項」に焦点を当て、英語科の指導力に関してどのような自己評価項目が記述されているのか複数の大学の履修カルテを調査し、その実態を明らかにする。

英語科教員の資質能力に関する評価項目の構築に関して、大学英語教育学会（JACET）の教育問題研究会が研究を行なっている。この研究会では、資質能力の評価項目一覧としてJ-POSTLを開発した。J-POSTLは、「『言語教育実習生のためのヨーロッパ・ポートフォリオ（EPOSTL）』の中核をなすCAN-DOリストの形での言語教師の授業力到達目標を、日本の言語教育（特に英語教育）の文脈の中で翻訳」（JACET教育問題研究会，2013，p. 5）したものであり、113の能力記述文で構成されている。

このように、教職実践演習とは別の文脈においてではあるが、英語科教員の資質能力に関する評価項目が開発されている背景を踏まえると、履修カルテにおいても、英語科教員に必要な資質能力がどのように記述されているのかを明らかにすることは、今後の英語科教員養成課程における教職実践演習の発展に貢献すると考える。

表1. 必要な資質能力の例

項目	項目	指標
基礎知識・技能 教科・教育課程に関する	社会科	これまで履修した社会科教育分野の科目の内容について理解していますか。
	教科書・学習指導要領	教科書や中学校学習指導要領（社会編）の内容を理解していますか。
	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。
	道徳教育・特別活動	道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。
	総合的な学習の時間	「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。
	情報機器の活用	情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。
	学習指導法	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。

教育実践	教材分析能力	教材を分析することができますか。
	授業構想力	教材研究を生かした社会科の授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案としてまとめることができますか。
	教材開発力	教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか。
	授業展開力	子どもの反応を生かし、皆で協力しながら授業を展開することができますか。
	表現技術	板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。

Note. 「課程認定申請の手引き（平成24年度改訂版）」（文部科学省, 2012）より抜粋

2. 目的

本研究の目的は、国立教員養成系大学で使用される履修カルテの「自己評価シート」を調査し、「教科・保育内容等の指導力に関する事項」に焦点を絞り、特に英語科教員にとって必要な資質能力に関する項目を記述することである。

3. 調査

調査は2012年10月から11月に行い、国立の教員養成系大学23大学に調査協力を依頼した。大学の多くは、中学校教員養成課程に英語専攻のコースを持ち、かつ小学校教員養成課程に英語選修等のコースを持つ大学である。うち9大学の協力を得ることができ、各大学の履修カルテを収集した。

履修カルテの収集の際、中学校教員養成課程英語専攻または小学校教員養成課程英語選修において使用されている履修カルテを送付していただくよう依頼した。

4. 結果

ここでは大学ごとに、記述されている自己評価項目を記載する。なお研究目的に沿い、「教科・保育内容等の指導力に関する事項」に関する項目のみを抜粋する。

4.1 A大学

A大学の自己評価シートは、授業ごとに評価項目を定め、それぞれの項目を自己評価する形式となっている。授業科目名と評価項目は表2のとおりである。

表2. A大学の自己評価シートの項目

授業科目名	評価項目	授業科目名	評価項目
教育の方法と技術	授業づくりの理論	英語科教育CI	教科の目標・内容・方法（理論）
	授業の指導法		実践的判断力、構想
教育実地研究（中学校実習）	学習の指導	英語科教育CII	教科の目標・内容・方法（理論）
			実践的判断力、構想

これに加え、教科に関する科目（音声学、英文学など）はGPAを基に評価および学習支援・指導の記録を記述する欄が設けられている。

4.2 B大学

B大学の自己評価シートは、上述した4つの必要な資質能力ごとに4つの指標を設けており、それぞれの指標を5段階で自己評価する形式となっている。記述されている指標は表3のとおりである。

表3. B大学の自己評価シートの項目

指標	
自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした学習指導案を作成することができるか	板書や発問、的確な話し方など基本的な授業技術を身につけるとともに、子どもの反応を生かしながら、集中力を保った授業を行うことができるか
教科書の内容を十分理解し、教科書を介してわかりやすく学習を組み立てるとともに、子どもからの質問に的確に応えることができるか	基礎的な知識や技能について反復して教えたり、板書や資料の提示をわかりやすくするなど、基礎学力の定着を図る指導法を工夫することができるか

4.3 C大学

C大学の自己評価シートは、4つの必要な資質能力（「学習指導」「こども（幼児・児童・生徒）の理解」「社会性・対人関係」「教育的愛情・使命感・責任感」）それぞれに下位項目を設けている。例えば「学習指導」の下位項目として、1) 専門的知識・技能の習得と自己学習、2) 保育・授業参観、3) 保育・授業づくり（授業開発）が設けられている。3)

には更なる下位項目として、「子どもや くみ・学級の実態把握（実態把握）」「保育指導案・学習指導案の作成（教材分析・開発、授業構想）」「保育・授業実践」「保育・授業評価」の4つの項目があり、細かく自己評価項目が設けられている。また各自己評価項目には例が添えられている場合もある（表中「◎」で記述されているもの）。各下位項目と自己評価項目は表4のとおりである。

表4. C大学の自己評価シートの項目

専門的知識・技能の習得と自己学習	
「幼稚園教育要領」「学習指導要領」に目を通し、特に専門科目の目的・目標・内容を学年進行に伴ってより深く理解する	現行の小学校、中学校、高等学校の教科書の内容をおおまかに理解する ◎教科内容の系統的理解、各校種ごとの内容の繋がり
専門領域で取得した知識・技能を基に学習指導案の基礎形を学び、ある単元・教材の授業を構想し、学習指導案としてまとめてみる ◎ゼミ活動の一つとして計画し、模擬授業にまで高めしていく	専門科目の学習指導に関わる指導方法や評価について、その意義、形態、具体的な方法などを理解、習得する ◎絶対評価、相対評価、個人内評価など
大学での講義・演習で「授業づくり（開発）」に関わる専門的な知識・技能を発達段階・学年進行に伴ってより深く理解、習得する ◎子どもの発達と学習に関する諸理論、学習意欲に関する理解、教育課程の意義や編成の方法、教授方法や教授技術、教材論（教材・教具や情報機器の種類およびその基本的な使用方法を含む） ◎教科教育の歴史や各教科の教育方法	それぞれの専攻・分野における講義・演習などを通して、専門領域（科目）で求められる基礎的あるいは専門的な知識や技能を発達段階・学年の進行に伴ってより深く理解し、習得する ◎専門領域（科目）で求められる理論的な思考力や表現力を身につけるとともに、専門領域（科目）の様々な事象に対する関心や意欲を育む。
保育指導案・学習指導案の作成（教材分析・開発、授業構想）	
こどもや くみ・学級の実態及び学習のねらい等に基づいた教材研究を行う	教材・教具、ワークシート等について検討し、工夫したり、新たに作成・開発するとともに、保育・授業の中での位置づけ、提示の仕方など効果的な活用法について考える
年間指導計画や単元全体の内容を見通した保育指	大学で学んだ専門的知識・技能や指導教官の指導、

導案・学習指導案を作成する	助言等を基に、「教えること」と「育てること」のバランスを考えた保育指導案・学習指導案を作成する
---------------	---

4.4 D大学

D大学の自己評価シートは、5つの項目（子どもの理解と学校教育、教育実習に関わる理解と実践、コミュニケーション・課題探求に関わる理解・態度、教科・教育課程に関する知識・技能、幼児教育及び生涯学習に対する理解）を設け、それぞれの

項目に自己評価のための指標を記述している。加えて、5つの項目それぞれの「関連科目」を記載することで、指標がどの授業において評価されるかを示している。記述されている指標は表5のとおりである。

表5. D大学の自己評価シートの項目

教育実習に関わる理解と実践	
教材研究を生かした教科の授業を構想し、子どもの反応を想定した授業案としてまとめることができるか（教材研究と授業の構想力）	題材や単元等に応じた教材・資料を開発することができるか（教材開発力）
子どもの反応を生かし、板書や発問、適切な話し方など授業を行う上で基本的な指導技術を駆使しつつ授業を展開することができるか（授業展開力）	
教科・教育課程に関する知識・技能	
これまでに履修した教育分野の科目の内容について理解しているか（全コース・選修共通科目・教科選修専門科目）	これまでに履修した教育学関係の内容について理解しているか（教育基礎選修専門科目）
教科書や学習指導要領の内容を理解しているか	

4.5 E大学

E大学の自己評価シートは、まず6つの項目（学校教育の課題把握、教科・領域に関する基礎的知識と教育実践への具体化、情報活用能力、授業力、児童・生徒理解と教育実践への具体化、学校と地域社会との連携、職能成長）を示し、その下位項目を設けている。例えば「教科・領域に関する基礎的知識と教育実践への具体化」には

「教科・領域の内容」「教科書・学習指導要領」「教育課程の編成」「教科以外の活動」「学習経営」「教育実践への具体化」の6つがあり、「授業力」には「学習指導・評価法」「教材研究力」「授業構想力」「教材開発力」「授業展開力」「指導技術」の6つがある。そしてそれぞれの下位項目に指標があり自己評価項目が記述されている。自己評価項目は表6のとおりである。

表6. E大学の自己評価シートの項目

教科・領域に関する基礎的知識と教育実習への具体化	
これまで履修した各教科・領域の内容を理解していますか	教科書や学習指導要領・幼稚園教育要領の内容を理解していますか
教育課程の編成についての基礎理論・知識を習得していますか	得た理解や知識を、教育実践に活用することができますか

授業力	
学習指導・評価についての基礎的な知識や方法を習得していますか	教材について深く調べて分析したり、価値付けたりすることができますか
教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案または保育案を作成することができますか	教科書などにある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか
子どもの状況や学習環境を把握し、学習課題に沿った授業または保育を展開することができますか	板書や発問、的確な話し方など授業や保育を行う上での基本的な指導の技術を身に付けていますか

4.6 F大学

F大学の自己評価シートは、12の自己評価の観点を設け、それぞれの観点で細かい内容を記述している。自己評価シートはオンラインで管理されてい

る。そのため調査では12の観点が記載された資料のみ入手でき、観点ごとの内容を明らかに出来なかった。「教科・保育内容等の指導力に関する事項」に関する観点は表7のとおりである。

表7. F大学の自己評価シートの項目

教育に関わる幅広い知識や教養	各教科の背景となる学問に関する知識
各教科で扱う内容（学習指導要領）の知識と技能	教科指導に関する知識
教科に関する指導技術	授業実践に関する専門的知識・技能

4.7 G大学

G大学の自己評価シートは6つの項目（学校教育の理解、子ども理解、他者との協力、教科・教育課程に関する知識・技能、教育実践、その他）とそれぞれの下位項目で成っている。下位項目それ

ぞれに「達成度評価の具体的指標」があり、それが自己評価項目となっている。「教科・教育課程に関する知識・技能」と「教育実践」の自己評価項目は表8のとおりである。

表8. G大学の自己評価シートの項目

教科・教育課程に関する知識・技能	
履修した教科専門科目の累積数とその成績評価から推測される達成度	教科書や学数指導要領の内容についての理解度
教育実践	
他の実践例を参照しながら教材分析をしたり新たな教材・資料を開発する能力の程度	教材研究をふまえて、子どもの反応を想定した指導案としてまとめる力量
板書や発問、的確な話し方など授業を行う上で基本的な表現技術の習得度	

4.8 H大学

H大学の自己評価シートは、7つの項目（学校教育についての理解、子どもについての理解、他者

との協力、コミュニケーション、教科・教育課程に関する基本知識・技能、課題追求、教育実践）があり、それぞれに自己評価項目がある。項目と自

己評価項目は表9のとおりである。

表9. H大学の自己評価シートの項目

教科・教育課程に関する知識・技能	
これまで履修した教科教育分野の科目の内容を理解していますか	自分の担当する教科の教科書や学習指導要領の内容を理解していますか
教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか
教育実践	
教科書にある題材や単元等に応じた教材・資料を開発・作成することができますか	板書や発問、的確な話し方など授業を行う上で基本的な表現の技術を身に付けていますか

4.9 I大学

I大学の自己評価シートには、4つの大項目（学
科教育についての理解、子どもについての理解、
教科・教育課程に関する基礎知識・技能、他者と

の協力）があり、それぞれに小項目が設けられて
いる。その小項目それぞれに1つずつ自己評価する
指標が記述され、自己評価項目となっている。大項
目と自己評価項目は表10のとおりである。

表10. I大学の自己評価シートの項目

教科・教育課程に関する知識・技能	
これまで履修した各教科の教科内容について理解していますか	教科書や免許状取得予定の校種の学習指導要領の内容を理解していますか
教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか

5. 考察

各大学の履修カルテ（自己評価シート）には、
教員に必要な資質能力のうち、英語科教員に特化
した記述はなかった。履修カルテは「教員免許取
得のためのコース毎に作成」（文部科学省, 2012,
p. 228）されるため、自己評価項目は教科ごとの
記述が期待されるものの、実際には教科横断的な
ものであった。例えば「これまでに履修した教育分
野の科目の内容について理解しているか」といった、
教職または教科に関する科目ないしは教科に関する
科目の講義内容の理解を評価する記述が多く見ら
れた。これは、文部科学省（2012）が示した履
修カルテの自己評価シートの例（表1）に沿って自
己評価項目を設けたためと考えられる。しかし、ど

の大学も「英語科教育分野の科目の内容について
理解しているか」と教科を特定した記述をしていな
い。この背景として、教科ごとの記述を含む自己評
価シートを作成することは手間と時間がかかるため、
教職課程全体で使用出来る汎用性のある自己評価
シート（自己評価項目）を作成したことが考えられる。
しかし、このような教科横断的な自己評価項目のみ
では、教科ごとにそれぞれ異なるであろう「教科・
保育内容等の指導力」を評価することは難しいの
ではないだろうか。教科に沿わない自己評価項目の
記述では、特に学生の専門科目に関する資質能力
に関する具体的な自己評価にはつながらず、教職
実践演習が目的とする必要な資質能力の形成の確
認は困難なものになると考える。

6. 結論

本研究では、国立教員養成系大学で使用される履修カルテについて、特に英語科教員にとって必要な資質能力がどのように記述されているかを調査した。その結果、自己評価項目は教科横断的な内容であり、特に英語科教員にとって必要な資質能力を記述したものは皆無であった。これをうけ、学生が自己評価を行う際には、必要な資質能力の形成の確認は困難になるという考察に至った。

このことから現在の履修カルテでは、英語科教員として必要な資質能力を評価することは難しいことは明らかである。その解決策として、英語科教員に求められる資質能力を評価する項目を履修カルテに加える必要があるのではないだろうか。例えば大学英語教育学会（JACET）の教育問題研究会が開発しているJ-POSTLのような指標を利用し、英語科教員に必要な資質能力の詳細な記述を履修カルテに取り入れ、英語科教員養成に特化した自己評価項目の構築を図るべきだと考える。

今後は、履修カルテの使用と教職実践演習での指導の現状について調査をし、英語科教員養成に特化した履修カルテの在り方について研究を行う必要があると考える。

引用文献

中央教育審議会（2006）「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」2010年3月26日検索

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/06071910.htm

JACET 教育問題研究会（2013）「英語教師の成長に関わる枠組みの総合的研究」『平成24年度（2012年度）科学研究費補助金基盤研究（B）研究成果報告書 研究課題番号22320112』

川嶋健太郎・篠塚致子（2012）「尚綱大学短期大学部・家庭科教員養成に関する一考察 初年度から教育実習後までの教職履修カルテを用

いた自己評価」『尚綱学園研究紀要 A. 人文・社会科学編』第6号, 123-135.

文部科学省（2012）「課程認定申請の手引き（平成24年度改訂版）」